

各委員における進捗状況の評価（意見集約）

成果目標1 「福祉施設入所者の地域生活への移行」（市の評価:A）		
No.	委員の評価	評価の内容
1	A	妥当な評価です。
2	B	評価は「B」ではないかと思います。これから目標達成できる見込みがあるという意味では「A」ですが、現時点での実績値から見ると、やはり「B」が妥当だろうと考えます。他の委員のご意見にもありましたが、グループホームという箱物を作るだけでなく、地域生活への希望や意欲を引き出すような「相談支援」が入所施設にも相談支援事業所にも求められると思います。 「親亡き後の入所待機」は、長年の「親に依存しきった障害者ケア」の結果、「親が倒れてから／倒れそうになってから」次を考えるというところに問題があります。「親が若いうちから、本人が地域で暮らし続けることを見据えた支援」を学校・通所事業所・相談支援事業所などが連携して取り組むことが、「地域から施設へ」の流れを食い止めるために必要と考えます。
3	B	①、「地域生活への移行」の考え方が、「新規グループホーム等の開設」に偏っているように感じます。「自宅での生活を中心にして利用できるサービス（インフォーマルサービスを含む）」の開発という視点も必要ではないでしょうか。 ②、容易なことではありませんが、障害福祉の枠だけでなく、地域福祉の中で障害者支援を考えないと真の「地域生活への移行」は達成できません。
4	A	妥当な評価です。
5	A	新規のグループホームは、利用者の障害支援区分が比較的軽度のところが多いです。それでも増えつつあることは、地域生活の可能性が広がることであるので、「進んでいる」の範疇に入ります。⇒ A しかし、重度の障害者は地域での生活の場が確保されない限り、親なき後は、施設入所そしてその後は人生の最期まで入所生活となることが多いです。普通に考えて、誰もそれを望む人はいないはずで。市として重度の方も利用できるような事業所の開設をぜひ進めていただきたいです。 また、重度であっても本人の意思はあります。相談支援専門員の意思決定支援のスキルアップ研修をよろしくお願いします。
6	A	妥当な評価です。
7	A	妥当な評価です。
8	A	今後も実態、ニーズに応じた環境整備をお願いします。
9	A	今後は地域生活を送るうえでの支援体制の充実を図ること、特に相談支援専門員の増員が重要ではないでしょうか。

各委員における進捗状況の評価（意見集約）

成果目標2 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」（市の評価：B）		
No.	委員の評価	評価の内容
1	B	妥当な評価です。
2	B	「B」が妥当だと思います。「数値目標の達成」という物差しで成果を評価するのは当然ではありますが、「なぜピアサポーターが増えないのか」「これまでの取り組みのどこに問題があるのか」という「質的な検証」も必要ではないでしょうか。現場の方々は懸命に努力しておられるでしょうから、その努力が実を結ぶための具体的な方策が見えてくるとよいと思います。
3	B	成果目標を「協議の場を設置する」とされていますが、協議した課題や課題解決策を教えていただきたいです。次期計画では、「地域ケアシステムの深化型」とされる「地域共生社会」の構想の中で「地域移行」の課題を考えていく必要があると思います。 ピアサポーター、ピアカウンセリングについては、ピアサポーターに寄り添う継続的な支援が必要で担当部署を明確にすべきだと考えています。
4	B	妥当な評価です。
5	B	ピアサポーターの人数が少ないので、活動自体も進んでいかない状況があると思います。当事者団体も保護者の高齢化により、障がい者団体連絡会への出席もなくなりました。精神障がい者本人をどう支援し、元気づけ、ピアサポーターを増やしていくかのところに留まっている状況のように思うので、「遅れている」ことは否めません。⇒ B
6	B	特にありません。
7	B	妥当な評価です。
8	B	自立支援協議会の協議の場を引き続き大事にしてください。
9	B	今後は、加古川健康福祉事務所との連携から協働への視点が必要ではないでしょうか。

各委員における進捗状況の評価（意見集約）

成果目標3「地域生活支援拠点等の整備」（市の評価:A）		
No.	委員の評価	評価の内容
1	A	妥当な評価です。
2	A	「A」評価でよいと思います。他の委員がおっしゃるように、この拠点を十分に機能させることが大変重要だと思います。5つの機能を揃えるだけに留まらず、それぞれの機能を質的に向上させ、5つの機能が適切に連動して、全体として充実した体制を構築していくことが望めます。当事者・家族・関係者の方々が、拠点の存在を身近に／頼りに感じられるように、まさに「地域生活を支えるための拠点」として発展していけるよう願っています。
3	A	地域生活支援拠点をイメージしにくいと感じています。 ①④は基幹相談支援センターが担い、②③は事業者が受け入れ、⑤については「くらし専門部会」が協議する。それらをコーディネートするのも基幹相談支援センターの役割と認識しています。市内に一つの「面的整備型」は大きなネットワークが必要で、つないでいくことができるでしょうか。
4	A	妥当な評価です。
5	B	利用する側からの感じ方ですが、重度の障害者にとっては、短期入所の場合は足りていません。支援の質の是非はともかくとして、受け入れさえも断られる場合があります。体験の機会是谁にでも与えられるべきです。報酬の上乗せだけではなく、専門的な人材育成がもっと行われ、人材が増え、職員体制が整うよう進めていただきたいです。 そして、利用者が施設に合わせるのではなく、支援者が利用者に寄り添えるような支援の質の向上、これが最も望んでいることです。
6	A	特にありません。
7	A	妥当な評価です。
8	A	各々の側面に対しての体制整備を進めておられると思います。
9	A	特にありません。

各委員における進捗状況の評価（意見集約）

成果目標4 「福祉施設から一般就労への移行等」（市の評価:A）		
No.	委員の評価	評価の内容
1	A	妥当な評価です。
2	A	「A」評価でよいと思います。目標を上回る実績を上げている項目もあり、高く評価できます。新型コロナを契機に、社会全体の「働き方」が大きく変わろうとしている中、障害のある方々の就労支援についても、新たな課題が出てくるかもしれません。未知数の部分はありますが、今後の取り組みが注目されると思います。
3	A	①当初、達成困難としていた目標値を、基準値を下方修正しましたが、修正しなくても目標値を達成できたことは評価できますが、要因は何でしょうか。目標数値だけの評価でなく、取り組みに対して評価すべきと考えます。
4	A	妥当な評価です。
5	A	就労の分野で先駆者的な施設があることで、就労では進んでいると思います。施設任せではなく保護者も厳しさを持って、わが子のサポートをしていくことが必要とされるので、簡単にはいかない部分もあると思います。
6	A	特にありません。
7	A	妥当な評価です。
8	A	就労支援の数値目標は概ね達成されており、それに至る工夫が功を奏した結果でもあると思います。成功要因を教えてください。
9	A	今後は、受け入れ企業への啓発も必要ではないでしょうか。

各委員における進捗状況の評価(意見集約)

成果目標5 「障がい児支援の提供体制の整備等」(市の評価:A)		
No.	委員の評価	評価の内容
1	A	妥当な評価です。
2	A	「A」評価でよいと思います。体制は整いつつあることは評価できますが、一方で障害児・親の多様なニーズに真に応えられる体制になっているかは、今後の検証も必要になってくると思います。新型コロナの影響で、「医療的ケア児の在宅ケアに欠かせない消毒液の確保が困難」という声も聞かれました。物資の面でも医療的ケア児と家族の置かれている環境が脆弱であることが改めて浮き彫りになったと思います。 また、障害児のニーズに合ったサービスも必要ですが(放課後等デイサービスなど)、一方で、障害児だけを分けて支援するのではなく、一般の保育・教育・子育て支援の場(学童保育など)に障害児や親が一緒に入っていけるよう、「児童福祉・子育て支援施策全般」の改善も望みたいところです。 障がい児分野だけに限りませんが、やはり看護・介護・保育・ソーシャルワークなどの人材の量的確保と質的向上が、現場の方々にとっても大きな課題だろうと推察します。今後の人材確保・育成への取り組みが、今後の計画にも反映されるとよいと考えます。
3	A	特にありません。
4	A	妥当な評価です。
5	A	重症心身障害児の福祉サービスが少しずつ進んでいることは、重心の子どもさんを持つ保護者の方々が、会議に出席し、前向きな意見を発表されたり、活動も活発になっていることで、よくわかります。 放課後デイサービスも充実してきているようなので、今後も医療的ケアの必要な子どもさんも含め、一人ひとりに対応できる施設が増えていってほしいです。
6	A	特にありません。
7	A	妥当な評価です。
8	A	ニーズ把握など現状に即した対策を考えておられることはありがたいです。 ③の需要に対して、サービスが供給できているということで、細やかに行き届いていることをしりました。
9	A	①加古川市立こども療育センターの多機能化に伴い、利用者が増えています。今後はこの利用者増への対応が大切ではないでしょうか。 ④医療的ケア児支援の今後の課題は、看護師の安定的供給であると考えます。その体制づくりが喫緊の課題であると思います。

各委員における進捗状況の評価（意見集約）

その他（全体等）の意見	
No.	内容
1	・各項目での意見ではなく、全体として、 加古川市の姿勢は評価できます。（Aだから現状維持でなく、更に充実を図るという点） 各項目について、共通軸に照らしてどうかという視点を含めるとなおよいと思います。（共生社会の実現・地域生活の実現・かけがえのない個人としての尊厳が守られるか・いわれなき差別はないか等） → 項目別の進捗では十分ではあるが、上記に照らすとなお一層〇〇を展開する等 これらについて来年度以降の評価時に意識していくと、評価そのものが建設的なものになると思います。